

学園創立 110 周年、大学創基 100 周年記念 寄付金募集趣意書

令和 2 (2020) 年度に、おかげさまで京都女子学園は創立 110 周年 (創始 121 年)、京都女子大学は創基 100 周年を迎えました。

学園の創始は、広島県出身の若き仏教徒・甲斐和里子が「仏教精神にもとづく女子教育」をとの願いから、明治 32 (1899) 年に創設した顕道女学院に遡ります。翌年には夫・駒藏とともに私塾「文中園 (のちに文中女学校に改名)」を開設。それから約 10 年にわたり、甲斐夫妻による献身的な学校経営は続けられました。

明治 43 (1910) 年、夫妻は西本願寺・仏教婦人会連合本部の援助を受けて「京都高等女学校」を合併し、学校の経営を仏教婦人会連合本部へ委譲します。(本学園はこの年を創立年としています。)

仏教婦人会連合本部の総裁であった大谷籌子裏方と本部長の九條武子夫人は、明治 42 (1909) 年から欧州の女子教育事情を視察しています。そして明治 43 (1910) 年 11 月に帰国し、共に女子大学の設立を思い描いていた矢先、籌子裏方は突然の病に倒れ夭折されました。武子夫人はその遺志を継ぎ、明治 45 (1912) 年 3 月、籌子裏方の追慕会に際して「女子大学設立趣意書」を発表。大正 3 (1914) 年には校地を現在の東山に移転して女子大学設立運動を推進し、文部省に対して「京都女子大学」の設置を申請しましたが女子大学としての設置は認められず、大正 9 (1920) 年に「京都女子高等専門学校」として認可されることとなります。(京都女子大学はこの年を創基の年としています。)
「女子大学」の名を冠することはできませんでしたが、当時全国に 10 校も無かった女子の最高学府として、以降、女性の社会進出に貢献する多くの人材を輩出していくこととなります。

爾来、100 年にわたり、学園は東山の地において大学院から幼稚園までの全学校を擁する女子の総合学園として、発展を遂げて参りました。そして本学園は、創立 110 周年 (創始 121 年) を迎えるにあたり、改めて学園の基本理念を確認するとともに、新たな 100 年に向けて力強い歩みを進めるべく、総額 150 億円に及ぶ第三次東山キャンパス整備計画及び ICT 環境整備計画を策定し、これからの 10 年間でこれを実現していく予定です。

各位におかれましては、コロナ禍の厳しい経済情勢下ではありますが、本学園のめざす教育理念にご賛同賜り、学園の更なる 100 年を支える教育環境の充実等のために、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和 3 年 2 月

学校法人京都女子学園

理事長・学園長 芝原玄記

京都女子学園の基本理念

1. 心の学園の実現（建学の精神の発揚）
親鸞聖人が顕らかにされた仏教精神にもとづいて、高い知性と豊かな情操を培い、時代や社会が大きく変化する中であっても、自らのいのちを深く見つめ、人生をしなやかに強く生き抜く力を涵養する、心の学園を実現する。
2. 社会の発展に貢献できる女性の育成
学園創設に尽力した三女性（甲斐和里子、大谷篤子、九條武子）の女子教育に対する理念と情熱を継承し、一人ひとりが人生のあらゆるステージで、自らの資質・能力を発揮して真に豊かな社会の実現に貢献できる女性を育成する。
3. 一貫教育の実現
京都東山に、幼稚園から大学まで全ての設置学校が集結する特色を活かし、幼児教育から初等・中等教育、高等教育さらには社会人の学び直しに至るまで、生涯を通じて切れ目なく、学修者本位の質の高い教育を実践する。
4. 持続可能な社会の創造への貢献
地球規模で生じている課題を自らの問題として捉え、多様性を尊重し、身近な課題から進んで解決に取り組み、学園の叡智を結集して、教育・研究を通じ、持続可能な世界の創造に貢献する。

寄付金活用目的

- ①学園各校の教育・研究条件向上のため
- ②大学キャンパス整備のため
- ③高中キャンパス整備のため
- ④小学校キャンパス整備のため
- ⑤幼稚園の教育条件向上のため

